公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年9月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・1
（特集・ツバメのねぐら入り観察会①）
◆香川県支部からの報告・・・・・・・・・・5
「小冊子申込者に向けた探鳥会開催報告」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・6
（2016年7月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・8
・探鳥会リーダーズフォーラム西日本版の締め切りが迫っています！
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記（特集・ツバメのねぐら入り観察会①）

この夏全国4か所の「ツバメのねぐら入り観察会」に参加しました。
今月号ではひょうご、和歌山県支部、鳥取県支部が開催した観察会の様子を紹介します。

ツバメのねぐら入りを見よう！（ひょうご）

【日時】2016年8月6日（土）
17時30分～20時
【場所】加古川河川敷（兵庫県高砂市）
【天候】晴れ
【参加者】68名（名簿記入した52名のうち非会員は31名）
【リーダー】2名

■探鳥会の様子

＜集合時＞

加古川河川敷のねぐら入り探鳥会は、ひょうごが10年ほど前から始めました。支部で導入したのは、鳥に詳しくない一般の方でも迫力満点で十分に楽しめることと、時期が8月ということで鳥が見られない時期の探鳥会の穴を埋めることができるということ、そして加古川河口のヨシ原の状態が良好でねぐらの変動が少ないため、探鳥会の運営に労力がかからないことなどがその理由でした。

集合時間の30分前の午後5時過ぎからそれらしい人がぽつぽつと集まり始め、小さな高砂駅の前は徐々に人の塊が大きくなっていきました。開始10分前くらいになると、人数は50人を超えて、閑散としていた駅前がかなり賑やかになり、最終的には70名近くにまで膨らみ、昨年の50名を大きく上回っていました。今回のリーダーは2名でしたが、参加名簿への記入を促し、参加費を集め、資料を配布する等で受付は大忙しです。

神戸新聞に掲載されたり、財団からの案内を受け取った方々、ホームページをご覧になった方々など十分に広報が行き届いていた印象で、夏休みらしく親子づれ、友人同士のペア、ご夫婦もしくはカップルでの参加が目立っていました。

＜観察場所へ移動＞

時間になり駅から徒歩で移動を始めて10分ほどで加古川河川敷に到着し、そこでしばらくミサゴやウミネコなどの鳥を見ながら時間調整。探鳥会の常連らしい子どもたちが土手に到着するなり、「あっミサゴだ！」といち早く首にかけた双眼鏡で観察を始め、探鳥会に慣れた子どもたちも参加していることがうかがい知

れました。そこから河川敷のサイクリングロードを鳥を見ながら移動し、10 分ほどでねぐら観察の場所に到着しました。

ねぐらの観察場所は、広大な加古川河口の中にできた中州を対岸の河川敷から眺めるという位置関係でしたが、ヨシ原までの距離は約50mと比較的近くでみることができ、堤防の上から見るとさらに 300mほど奥のヨシ原まで見通すことができました。ねぐらの観察条件としてはかなり良い条件だったと思います。

参加者は、その場で腰を下ろして薄暗くなるのを待つ人々、周辺を歩きながら観察する人など思い思いの過ごし方でねぐら入りの時間を待っていましたが、そこで、リーダーの鈴木代表の呼びかけで参加者が集まり、七夕の歌の合唱が始まりました。どうやら鈴木代表の探鳥会では歌を歌うことが恒例のようです。お互いによく知らない者同志でどこかよそよそしい雰囲気だった探鳥会も、一緒に歌を歌うことで和やかな空気に変わってきました。

リーダーの方がハヤブサに捕食されたドバトの新しい死体を見付け、ツバメやハトを狙ってやってくるハヤブサの生態のお話しや、ヨシ原の中に生息するキツネのお話しを聞くことができ、都市部の河川の河口部に豊かな生態系が維持されている様子がわかりました。このような場所が、駅から徒歩 20 分というアクセスのよい場所にあることに、このフィールドの良さがあると思いました。

そうこうしているうちに、上空にはツバメが集まりはじめ、ねぐら入りが始まりました。結局この日は 2 万 5 千羽のツバメが集まり、夕日をバックに乱舞するツバメのシルエットを見ることができて参加者からは歓声やため息が出ていました。やがて薄暗くなり、300mほど先のヨシ原までびっしりと寝入ったツバメの様子が双眼鏡で確認することができて約 30 分間のねぐら入りを堪能することができました。

▲観察会の様子

▲子どもの参加者の様子

■参加者の声

岡山県在住の女性：近所の雑居ビルでツバメの巣が落とされているのを見て思わず「巣を落とさないでほしい」と個人で申し入れをしたことがあります。その時は聞き入れてもらえませんでしたが、岡山県支部からも同様の申し入れをしたところ、今度は聞き入れてくれたことを知りました。何かアクションを起こそうとするとき日本野鳥の会という名前が影響力を持つということに感心しました。加古川のねぐら入りは素晴らしかったです。人とツバメのよい関係を培っていければと願っています。

（普及室／箱田敦只）

紀ノ川ツバメの塒観察会（和歌山県支部）

【日時】2016 年８月７日(日)
　　18 時～19 時 30 分
【場所】紀ノ川 六十谷橋下流河川敷
　　（和歌山県和歌山市）
【天候】晴れ
【参加者】48 名（うち非会員 32 名）
【リーダー】１名

■探鳥会概要

開催場所は、和歌山市内を流れる紀ノ川の六十谷橋下流河川敷。堤防際まで民家が建ち並び、堤防上の県道は家路を急ぐ自動車がひっきりなしに通ります。河川敷には管理道路がひかれ、眼前に広がるヨシ原に入っていくことが可能です。

以前から数千羽規模の塒が確認されていた場所とのことですが、近年ヨシ原の保全面積が拡がるにつれ利用するツバメの数も多くなっているそうです。

■探鳥会の様子

良く晴れた暑い日でしたが、集合時間には川沿いを吹き抜ける風が涼しく感じられる良いコンディションで観察会が始まりました。

堤防から河川敷に降りる広い階段に腰かけてツバメを待ちます。リーダーが用意してくれた飲み物や参加者持ち寄りのお菓子をつまみながら、ねぐら入りについての解説に聞き入っていました。自宅や近所でツバメの子育てを見守っている参加者も多く、

「巣立った子ツバメはどこに行ってしまうのですか？」

「どれぐらいの範囲のツバメがここに集まってくるのかしら？」

と、次々と質問が飛び出していました。参加者に待機してもらう際の隊形や待ち時間を活かした解説・質疑応答、茶菓の振る舞いなどの相乗効果で、ツバメを待つ時間が冗長にならずに、むしろ期待感を高める良い時間になっていたと感じました。

19 時ごろ、リーダーに促されて上空を見上げると様々な方角からツバメの群れが飛来し、あれよあれよという間に無数のツバメが飛び交う様に参加者が歓声を上げました。ここで、待機していた階段からヨシ原の中に移動して観察を続けました。

徐々に高度を下げながら、ツバメはさらに数を増やしていきます。紀ノ川の水面を黒い大きなうねりのように群れ飛ぶ様子は圧巻です。参加者とヨシ原の間を縫うように無数のツバメがすり抜けて飛んでいきます。手を伸ばせば届きそうなツバメたちの姿に参加者は皆息を呑んでただ立ち尽くしていました。

夕闇が濃くなってきた 19 時 15 分ごろ、ツバメたちが次々とヨシ原の中に入り、５分もたたずにすべてのツバメがねぐら入りしました。冷めやらぬ興奮を、双眼鏡無しでも観察できる眼前のヨシ原に無数のツバメが休む様子をじっくりと観察しながらクールダウン。リーダーが帰路の安全を呼び掛けて観察会を締めくくりました。

▲堤防の階段でツバメを待つ

■まとめ

この日は約 １ 万 5 千羽のツバメがねぐら入りしたとのこと。都市部のアクセスのよい場所に位置し、参加者とヨシ原の距離が近く、十数年来ねぐらが確認されている大変好条件のフィールドでした。しかし裏返せば人の活動の影響を受けやすい場所でもあり、ねぐら入り観察会の実施に際してはフィールドマナーの普及向上やツバメの現状への理解を深めることが非常に重要であると感じました。

（普及室／浅野綾子）

中海ツバメのねぐら入り観察会（鳥取県支部）

【日時】2016 年８月７日(日)
　　18 時 30 分～20 時 00 分
【場所】中海周辺（鳥取県米子市）
【天候】晴れ
【参加者】28 名（うち非会員 23 名）
【リーダー】３名

■探鳥会概要

中海は、鳥取県と島根県にまたがる潟湖です。中海周辺には、ツバメがねぐらをつくる可能性のある場所が３ヶ所あるそうですが、今年は、米子水鳥公園の東側に位置するヨシ原がねぐらとなりました。

このヨシ原は、国土交通省の管理地となっており、支部で事前に許可をもらって開催していました。ヨシ原のそばに水路があり、そこにかかる橋の上から観察しました。

■探鳥会の様子

集合場所に指定された市内の駐車場から、リーダー先導のもと各自車で観察場所のヨシ原付近まで移動しました。この日は参加者 28 名の内、８割が一般の方でした。親子連れが８組参加しており、お子さんたちの多い賑やかな印象でした。

▲これから歩いてヨシ原へ移動

車をとめた場所で、リーダーからトイレや簡単な注意事項の案内がありました。

ヨシ原までは歩いて数分の距離です。中海に浮かぶ萱島に集まるカワウやサギ類を見ながら移動しました。途中リーダーからは、子どもは動体視力が良いから見分けられるかもしれないと、ツバメのオス・メス、成鳥と幼鳥で尾の長さが違うことの説明がありました。

19 時頃ヨシ原に到着すると既にポツポツとツバメの姿が見られました。19 時 15 分頃になると徐々にその数が増え始め、参加者からは「虫みたい！」と初めて見る光景に驚きの声があがります。その後 19 時 30 分頃まで、約２万羽のツバメが一斉に飛ぶ様子や旋回する様子を堪能できました。

観察の合間にリーダーからは、ツバメがねぐらをつくる理由や、今が２回目に繁殖した幼鳥も加わったピークであること、お盆を過ぎると成鳥から南へ渡っていくことなどの解説がありました。また参加者からの質問に、バンディングの経験や研究論文の情報も交えながら答える様子もみられました。

なおこの日は米子市の花火大会と重なっており、ねぐら入りの後は、同じ場所から花火も見物して解散となりました。

■まとめ

親子連れの参加が多かったですが、鳥取県支部では、水鳥公園が主催する「子どもラムサールクラブ」や児童文化センターのクラブなどで講師対応をされているそうです。そのため、生きもの好きの家族との接点があり、普段の探鳥会にもよく参加があるそうです。探鳥会以外にも他団体と協力した普及活動をされている成果なのだと思いました。

ヨシ原に到着するとすぐにツバメのねぐら入りが始まる時間設定となっていました。リーダーは、ツバメの生態や、何気なく思えるヨシ原がツバメにとって大切な場所であることをしっかりと伝えていました。また花火が始まるまでに余裕のできた時間には、支部で取り組むブッポウソウの保護活動やお試し入会の案内などもされていました。毎回の観察会の場を大事にし、仲間を増やしていこうとする意気込みが感じられました。

（普及室／堀本理華）

◆香川県支部からの報告

「小冊子申込者に向けた探鳥会開催報告」

【日時】2016 年 8 月 14 日（日）
9 時 30 分～12 時
【場所】栗林公園
【参加者】65 名（うち非会員 25 名）

■開催の経緯

5 月の中四国ブロック交流会で、普及室から、小冊子「おさんぽ鳥図鑑」が四国新聞に掲載され、香川県内から約 300 件の申込みがあったと聞きました。懇親会で話す中で、小冊子の申込者に案内を出すことができるので、その方たちを対象とした探鳥会を開催しませんかという話をもらいました。

暑くてお盆にはなりますが、小冊子を受け取ってから間が空いて参加者の熱意が冷めてもいけませんので、支部の定例探鳥会（8/14）に併せて開催することにしました。またこの日は午後からクーラーの効いた室内で、会員が撮影した野鳥スライド上映会もあるので、はじめての方に楽しんでもらえると思いました。

■開催の準備

普及室からは、「おさんぽ鳥図鑑」の申込者 300 名に、「ミニミニ野鳥図鑑」などこれまでに制作した小冊子申込者を加えて、約 500 名（すべて非会員）に、ハガキで案内を出していただきました。

支部としては、通常の広報（支部報、地元の新聞、地元の新聞の生活情報誌）のみとして特別なことはしませんでした。ただ、非会員参加者が多いと見こみ、初心者担当を通常１名を４名に増強して丁寧なサービスを行える体制としました。

▲探鳥会開始の説明

▲魚をたべているミサゴ

■当日の様子

当日は連日猛暑の中での実施であり、お盆とも重なり、参加者も少ないのではと危惧されましたが、65 名もの参加がありました。

集まって来られた方を見ると、いつものメンバーに加えてハガキを手に持って来られ、この案内で来ましたと言って下さる方が見かけられました。

普及室で調べてもらったところ、非会員参加者 25 名のうち、ハガキを受け取っていた方（同伴家族を含む）は、17 名でした。残りの８名は、支部の広報による参加と思われ、通常の探鳥会で見られる初参加者人数と同じくらいでした。

はじめての方のグループをつくり案内しました。双眼鏡の使い方から丁寧に説明し、ツバメが水面をかすめて飛ぶ様子や、カワセミの瑠璃色、ミサゴが枯れ松で魚を食べる様子が見られて大満足して頂けました。

数人の方には、午後からの野鳥写真スライド会にも参加して頂けました。

■今後の展望など

今回の試みでいつもとは異なった客層が来られることが分かりました。機会を見て定例探鳥会とは違った土曜日あるいは平日開催なども計画してみたいと思います。普及室のご支援にお礼を申しあげます。

（香川県支部支部長／矢本賢）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 7 月分）

7 月は 68 支部からご報告をいただき、計 178 回の探鳥会が開催され、のべ 3,815 人が参加されました。

表 1. 7 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 8 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	18	8	1	27
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	12	8	5	25
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	9	0	2	11
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	49	7	5	61
小樽支部	2	10	10	3	23
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	0	0	0	0	0
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	2	15	3	2	20
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	19	10	2	31
秋田県支部	4	29	5	4	38
山形県支部	1	8	2	2	12
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	15	17	4	36
北上支部	1	9	3	1	13
宮城県支部	3	34	14	6	54
ふくしま	2	43	0	4	47
郡山支部	2	18	0	5	23
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	3	0	8	11
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	22	2	1	25
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	2	4	38	4	46
茨城県	5	69	21	9	99
栃木	−	−	−	−	−
群馬	7	61	24	23	108
吾妻	1	22	0	2	24
埼玉	4	111	40	31	182
千葉県	6	79	27	25	131
東京	14	393	17	61	471
奥多摩支部	9	97	34	32	163
神奈川支部	8	105	42	26	173
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	29	6	2	37
石川	2	20	6	4	30
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	2	20	7	4	31
軽井沢支部	1	10	10	1	21
諏訪支部	1	2	6	2	10
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	1	3	10	2	15
甲府支部	2	45	7	5	57
富士山麓支部	1	2	9	3	14
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	11	0	2	13
南富士支部	0	0	0	0	0
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	−	−	−	−	−
遠江	1	9	0	2	11
愛知県支部	8	91	79	19	189
岐阜	−	−	−	−	−
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	2	38	1	4	43
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	22	20	8	50
京都支部	4	58	9	10	77
大阪支部	17	172	45	71	288
ひょうご	2	48	67	13	128
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	18	13	2	33
島根県支部	1	8	0	1	9
岡山県支部	4	70	69	15	154
広島県支部	3	23	14	7	44
山口県支部	2	23	4	2	29
香川県支部	2	75	20	3	98
徳島県支部	5	61	11	5	77
高知支部	1	9	12	1	22
愛媛	4	51	32	7	90
北九州	1	7	0	1	8
福岡支部	6	81	12	15	108
筑豊支部	3	27	1	3	31
筑後支部	1	9	18	3	30
佐賀県支部	2	22	14	3	39
長崎県支部	−	−	−	−	0
熊本県支部	2	33	18	3	54
大分県支部	2	16	22	4	42
宮崎県支部	1	23	10	1	34
鹿児島	1	21	20	4	45
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	178	2,411	904	500	3,815

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラム西日本版の締め切りが迫っています！■

今年の探鳥会リーダーズフォーラムは、10 月に神戸市で西日本版を、1 月に八王子で東日本版を開催します。10 月の西日本版の締め切りは 9 月 30 日（金）。
みなさまのお申し込みをお待ちしています。

◆実施概要
＜時　期＞ 2016 年 10 月 29 日（土）
13:00 ～ 30 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 六甲山 YMCA
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に
関わっている方
＜定　員＞ 50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000 円（1 泊 2 日）
＜分科会＞

29 日　分科会 A（1 日目）

A-①「インターネットの広報活用術入門」
渡辺裕幸（岡山県支部）

A-②「広がれ！若者向け探鳥会！
手さぐりからはじめませんか？」
寺田綾乃（京都支部）
駒田峰子（大阪支部）
田阪知子（奈良支部）

A-③「あったらいいな！バードウォッチング
新商品開発ワークショップ」
生田南美子（財団普及室）

30 日　分科会 B（2 日目）

B-①「野鳥をテーマに子どもたちの心に
伝わる環境学習のスキルを身につけよう！」
丸谷聡子、紀田俊明（ひょうご）

B-②「探鳥会で人材をリクルート」
西村克之（京都支部）

B-③「街がフィールド！ツバメをテーマ
としたプログラムを考えよう」
堀本理華（財団普及室）
荒哲平（財団自然保護室）

【申込方法】
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tancho-kansai2016
＜お申込のみに関するお問合せ先＞
（お申込以外のお問合せは財団普及室へ）
（株）南海国際旅行 TEL：03-3543-3272
（担当：松山）

【申込期間】
2016 年 9月30日（金）まで
（定員になり次第締め切り）

【その他フォーラム全般についての
お問い合わせ】
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒 141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇初心者向きでもオオムシクイ？

秋の渡りの季節が巡ってきました。前号で紹介した、「メボソムシクイ上種」まで同定しきれないムシクイ類がいるかも知れません。属レベルまでわかれば、ムシクイ属 sp.としておくことができます。ただし、新版では P334 で解説しましたが、ヒメウタイムシクイ（ヨシキリ科ヒメウタイムシクイ属）のように、角尾、短めの下尾筒などの点でムシクイ科ムシクイ属と似た種もいるので、識別はくれぐれも慎重に・・・。

前々号では『フィールドガイド日本の野鳥』と『新・山野の鳥』との刷り合わせについて書いたし、過去には新版２刷りの段階で修正したい点なども紹介してきましたが、この度、『新・山野の鳥』増補改訂版の４刷での修正点を検討し、オオムシクイを追記することにしました。

『新・山野の鳥』は 2013 年に増補改訂版となりましたが、初心者向きであることを理由に、メボソムシクイとの識別が難しいオオムシクイには触れませんでした。が、北海道で繁殖するし、渡り途中に識別できれば、観察される頻度は各地で増えることでしょう。また、新版で解説したように声による識別は可能なので、メボソムシクイの解説文中に「北海道東部に飛来するオオムシクイはジジロを繰り返してさえずる」と追記することにしました。

◇メボソの地鳴きはジジッでよいか？

さえずりが聞かれない秋の渡りでは、ポイントは地鳴きになります（地鳴きだけでは識別できないこともありますが）。これが、悩みのタネとなりました。

オオムシクイとメボソムシクイの地鳴きでは、後者の方が鋭さに欠け、やや低く感じられます。『フィールドガイド日本の野鳥』では高野がメボソムシクイの地鳴きを「リュリュッ」と書いていたので、新版でオオムシクイの地鳴きの質を表すのに「ジ」を選択し、「ジッ」「ジジッ」としました。（『新・山野の鳥』では触れませんが、さらに微妙な違いのコムシクイはやや高く感じられるので、「ビッ」「ビビッ」としました）

『新・山野の鳥』は初心者向きとして、敢えて多くの種の微妙な違いまでは触れていません。メボソムシクイの地鳴きは、センダイムシクイやエゾムシクイの地鳴きと比べて濁っていることを表現するために「ジジッ」と書いてきました。つまり、『新・山野の鳥』増補改訂版４刷以降、オオムシクイの地鳴きを新版に合わせて「ジジッ」と記すと、メボソムシクイの地鳴きと同じになってしまいます。録音されたものを何度も聞き直して、メボソムシクイの地鳴きは『新・山野の鳥』では、「ジュジュッ」と表記することにしました。

当会発行の図鑑の中では、大きなずれがないようにしたいのですが、時代とともに見解も変わるし、著者も対象も違う図鑑で表記を揃えるのはかくも難しいところがあるわけです。それでも、努力は続けます。例えば、新版では、亜種による全長の差が大きい種では全長に幅を持たせるようにして、カワラヒワの全長では亜種オオカワラヒワに配慮しました。『新・山野の鳥』増補改訂版でも、今後はそれに合わせるつもりです。

◇ツツドリ？カッコウ？初列雨覆？

秋の渡りではムシクイ科のほか、カッコウ科の識別も簡単ではありません。特に、ツツドリはよく身近な環境にも現れますが、繁殖期のように特徴的な声は出さないので、カッコウとの識別に苦労させられます。新版のみならず多くの図鑑でカッコウの方が大きいように書かれていますが、計測値を細かく調べると、カッコウの小さな個体とツツドリの大きな個体で数値は重複しているようです。

より詳しい識別情報として、近年紹介されるようになったのが初列小雨覆と下尾筒の違いです。ツツドリでは初列小雨覆が白く（カッコウは黒斑が多め）、下尾筒ではクリーム地に黒斑が目立つ（カッコウは白く、斑が目立たない）などとされます。個体差もあるようだし、野外で確実にわかるとも思えないので新版では触れていませんが、少なくとも、多くの図鑑には「初列雨覆」としか示されない部分にも小や大があるわけです。

2015 年 9 月号に書かせていただきましたが、新版では、P15「鳥の各部の名称」でカモ類の翼の図に「初列大雨覆」は示しました。ただし、同じ頁の一貫性という観点からは初列（大）雨覆としたほうがよいとの指摘があったので、２刷りの段階で検討します。

◇京都や群馬の目録の優れた点

８月 28 日に京都支部創立 80 周年記念祝賀会に参加させていただき、そこで『京都府鳥類目録 2016』をいただきました。前回、「種を決められないことが多いのに・・・」と書いたことがうまく処理されていたので、紹介させていただきます。全種写真付きで解説が簡単明瞭、月別に記録回数や探鳥会出現確立が示されていて傾向がわかりやすいなど、感心させられた点は多々ありますが、何より、参考記録種・亜種という項目がよかったと思います。そこでは・・・写真がない、記録の詳細が不明などの理由で参考記録とした種です。いずれも記録を否定するものではなく、第三者が識別の妥当性を判断できないことによります・・・などと書かれていました。

これまでご紹介する機会がなかったのですが、2014 年、日本野鳥の会群馬が発行した『群馬県鳥類目録』もこの点で優れていて、良心的と思えます。補遺で「検討を要する記録・保留した記録ほか」という項目をたて、検討の経緯などがきちんと残されています。

（普及室／安西英明）

▲新版で谷口高司さんに直していただいた図版の例で、今回はキタヤナギムシクイです。2007 年、増補改訂版で描いていただきましたが、新版では改めて見直し、よりよくするために微修正をお願いしました。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信９月号の電子メール版の購読者数は、２名増えて842名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信９月号電子メール版の購読者数（2016年９月14日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	17
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	55	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	842

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今年はいつになく水害のニュースが多いような気がします。被害にあわれた地域の方へお見舞い申し上げます。
「探鳥会リーダーズフォーラム西日本」は只今募集中です。今月末が締切です。お申込みを検討中の方はお早めにどうぞ！

今月はじめ、初めて青森県の奥入瀬渓流へ行ってきました。美しい水辺でどんな鳥が見られるのだろう？とワクワクして行ったのですが・・・トリプル台風の影響で水は泥水、お天気も微妙、初めての出会いはゴジュウカラだけでした。是非再訪したいです！

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第42号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016年9月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org